第n回定例会資料

統計情報の収集について

2016/5

# 1.本企画書について

本企画書は、第31回文実定例会で「23\_統計」(以下、「前企画書」)が可決されたことを受けて作成されたものです。

# 2.企画内容

## (1)概要

文化祭及びその前後で統計調査を行い、それに基づいて資料を作成し、公開します。調査の対象となる項目は次節で説明します。

## (2)利点/目的

現状については、前企画書の「現状」の節を参照してください。

本企画導入によって、今まで確認できなかった企画の効果を客観的データで把握することができ、良い企画の判別に役立ちます。また、新しく企画を作成する際に前年度までのデータを参考にすることができ、フィーリングや経験に頼らない立案が期待できます。

## (3)問題点

・審査委員シフトの増大

・統計データを取りにくい企画はどうするか

・どこに、どうやってデータを保存していくのか

・アンケート方法(手段、場所)

・統計の公平性

# 3.統計の対象項目

## (1)企画書の効果の調査

アンケートや実地での測定で、新企画による変更・改善が実際に効果のあるものだったかを調査します。

## (2)主要ポイントの来客状況

調査すべきと考えられる場所(未定)で、一定時間ごとに通行客数及び混雑状況を記録します。

## (3)各デコの来客状況

全団体に時間帯ごとの来場客数の記録を義務付けます。記録に際して必要になる用紙及び数取器は文実が用意します。

## (4)来校者アンケートの実施

来校者に選択式のアンケートを行い、属性や感想を答えてもらいます。ここで(1)の新企画の効果も併せて調査します。実際にどのように実施するかについては、以下の3つの選択肢から今後検討していきます。

### 案①：パンフレットに添付

　　　　パンフレットに用紙を挟み、回答してもらったものを回収します。

### 案②：専用スペースの設置

　　　　　校門付近に専用スペースを設置し、回答してもらいます。

　　　　　手段としては、紙媒体と電子デバイスの二つが考えられます。

## (5)各部門に必要なデータ

各部門の要請を受けて、必要な統計を取ります。

# 4.実施細目

## (1)関係部門

全部門

## (2)ロードマップ

一学期　各方面の合意を得る

　　　　統計の対象を明確にする

二学期　調査方法の確立する

　　　　データ保存のための用意をする

## (3)関係機関

各デコ、特別班、審査委員会

松岡 (審査)